

東風吹かば 白ひおこせよ 梅の花 あるじなしとて 春な忘れそ

# 亀戸天神社



## 梅まつり

2/9日～3/8日

◆亀戸名品市 甘酒、江戸切り子実販売など



普原道真公を奉り、学問の神様としても親しまれる亀戸天神社では、受験生のための絵馬やお守りが各種用意される。

「学業御守」のほか「梅守り」や、延命長寿にご利益がある「ふじみ守」なども授与されている。

江東区亀戸3-6-1 ●交通 JR総武線・東武亀戸線 / 「亀戸」駅下車、徒歩10分。JR総武線 / 「錦糸町」駅下車、徒歩15分。都バス / 亀戸天神前下車すぐ ●問合せ 亀戸天神 TEL.03-3681-0010

白梅、紅梅 約250本 道真が愛した 梅の花がみごと!



●「天神様」縁の社 太宰府天満宮の神官だった菅原信祐(菅原道真公の末裔が、「飛梅」の木で道真公の像を彫り、諸国行脚の末、寛



文元(1661)年、本所亀戸村にあった小さな社にこの像を奉祀したのが始まり。翌年、天神様を崇敬する四代將軍・家綱が、現在の場所に土地を寄進、太宰府天満宮の社に倣って社殿、楼門、回廊、心字池、太鼓橋などを創建した。道真公は政争に敗れ、延喜元(901)年、筑紫の大宰府政所に流され、失意のうちに客死した。京を発つ時、書齋から庭の愛梅を眺め、別れを惜しんで詠んだ歌はあまりにも有名。

その梅が主を慕って京都から大宰府に飛んで来て、根を下ろしたという「飛梅」の伝説が今なお残る。梅の花をこよなく愛し、5歳の時に詠んだ、「うつくしや 紅の色なる梅の花 吾子が顔にもつけたたくぞある」に因んだかわいい童子の像が、境内中央の心字池の脇にある。

### ●戦禍から復興

昭和20(1945)年の東京大空襲により、亀戸天神社は、御神庫1棟を残すすべて焼失。その後、道真公を敬い、家紋も梅を使用している旧加賀藩前田家の子孫・前田利建氏が中心となって復興、梅も植樹し、現在、境内には約250本の梅がある。心字池に架かる太鼓橋の参道、池の周りに、参道の左右に藤棚があり、これらに沿って梅の木が植えられている。また、本殿の左右に柵囲いがあり、向かって右に紅梅、左に白梅があり、囲いには、入試合格の願かけをした「絵馬」がびっしり掛かっている。梅は、50種以上あり、1本の木から紅と白が咲く「思いのまま」もある。

うつくしや 紅の色なる梅の花

吾子が顔にもつけたたくぞある

## 梅まつり

2/15日～3/1日

10:00～17:00

◆すみだ親善大使の ◆琴・尺八の演奏  
写真撮影会 ・2/15(土)、16(日)11:00～  
◆短歌と俳句の寄稿 ・2/15(土)、16(日)11:00～  
(入園時にお尋ね下さい。)



◆香取神社の御朱印。 「梅」の香に誘はれて入る 万華鏡」と、俳句が添えられている。

梅まつり期間中、香取神社境内では梅にちなんだお菓子等が販売される。



購入者には 特製ステッカーを 配付

墨田区文花2-5-8 ●交通 東武亀戸線 / 「小村井」駅下車、徒歩5分。都バス / 亀戸-日暮里(里22)「文花2丁目」下車、徒歩5分。錦糸町-青戸車庫(錦37)上野 松坂屋前-平井駅(上23)「文花3丁目」下車、徒歩7分 ●問合せ 香取神社 TEL.03-3612-0878

# 香梅園



●小村井梅園がモデル 江戸末期、香取神社の近くに「小村井梅屋敷」と呼ばれた梅園があった。安藤広重の「絵本江戸土産」にも取り上げられ、大勢の人が梅見を楽しむ様子が描かれている。 広さは3300坪、園内には富士山に似せた築山や茶屋、池などが造られ、花の盛りには多くの人で賑わった。歴代將軍も訪れるほどで、將軍が愛でた「御成り梅」と称された木もあった。しかし、臥龍梅で知られた近くの「亀戸梅屋敷」と同様、明治43(1910)年の大洪水で、甚大な被害を蒙り、廢園となってしまった。

梅は目線で楽しむ 香取神社の松原康行宮司 山人、狂歌師、亀田鵬齋(儒家)、谷文晁(絵師)、大窪詩仏(漢詩人)、加藤千蔭(国学者、書家)らから寄贈された梅樹360株をはじめ、様々な樹木を植え、文化元(1804)年に梅園として一般公開した。併せて園内の梅の実から梅干を作り、名物として販売、これも人気を呼び、梅園は広く知られるようになった。

## 梅まつり

2/8日～3/1日

9:00～17:00(最終入園16:30)

◆江戸大道芸 大黒舞、放下芸(ほうかけい)等の大道芸を披露します。 【日時】2/9日(日)、23(日)11:40～、13:00～、15:00～(各回約30分) 【出演】浅草雑芸団 ◆梅を詠む お客様に「梅」を題材にした俳句・和歌を俳句帳にお書きいただけます。 【日時】期間中毎日 ◆すずめ踊り 初代園主の佐原鞠出出身の地、仙台が発祥で、墨田区ゆかりの浮世絵師、葛飾北斎が描いた「北斎漫画」にも登場している「すずめ踊り」を披露します。 【日時】2/16(日)、3/1(日) 各日13:00、15:00(各回約30分) 【出演】福来雀

東向島 墨田区東向島3-18-3 ●交通 東武スカイツリーライン / 「東向島」駅下車、徒歩8分。京成電鉄押上線 / 「京成亀戸」駅下車、徒歩13分。都バス / 亀戸-日暮里(里22)「百花園前」下車、徒歩3分。駐車場なし。 ●開園時間 9:00～17:00(入園16:30まで) ●入園料 一般150円、65歳以上70円 ●問合せ 向島百花園サービスセンター TEL.03-3611-8705

# 向島 百花園

江戸時代、亀戸の「梅屋敷」に対して「新梅屋敷」と呼ばれた百花園



花見の名所として 文人墨客が集った名園

●文化人のサロン 日本橋で骨董商人として財を成した佐原鞠出が武家屋敷であった3000坪ほどの土地を買い取り、かねてから親しくしていた文化人の大田南畝(蜀山人、狂歌師、亀田鵬齋(儒家)、谷文晁(絵師)、大窪詩仏(漢詩人)、加藤千蔭(国学者、書家)らから寄贈された梅樹360株をはじめ、様々な樹木を植え、文化元(1804)年に梅園として一般公開した。併せて園内の梅の実から梅干を作り、名物として販売、これも人気を呼び、梅園は広く知られるようになった。

●江戸庶民の行楽地 「梅は百花にさきがけて咲く」ことから、人気絵師、酒井抱一が百花園と命名したと伝えられている。この賑わいから、当時は、亀戸の「梅屋敷」に対して「新梅屋敷」と呼ばれた。 さらに鞠出は、園内に祀ってあった福祿寿に着目し、桜餅が門前の名物であった長命寺の弁財天などを取り込み、谷中に做って「隅田川七福神巡り」を提案。こちらも大いに当たり、隅田川東郊は江戸庶民にとって格好の行楽地の一つになった。 この時期は、ちょうど江戸町人文化が最も栄えた文化・文政期(1804～30)にあたり、人々は花と親しみながら茶を喫し、隅田川焼き(炭焼きの

